



晴ればれ通信

新年度に寄せて 会長 山田 司

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で大鰐町老人クラブ連合会の諸事業活動は計画通り実行できず、会員の皆様におかれましては日々不安な生活を過ごしていたことと思います。

本年こそは、コロナウイルスが収束し、楽しく活動ができることを願うばかりです。できる限り対策をしながら事業を実施して行きたいと思っておりますので、会員の皆様、一致団結して活動を盛り上げて行きましょう。

定時総会開催

第56回定時総会が4月5日福祉センターにおいて開催されました。総会は山田司会長の開会挨拶に引き続き、来賓挨拶を社会福祉協議会会長山田金治氏からいただきました。



その後、山中監事から監査報告が行われ、事務局より令和3年度事業報告と収支決算報告、令和4年度事業計画(案)と収支予算(案)について報告があり、山田議長より議案の承認を求めましたところいずれの議案も提案どおり承認されました。

新年顔合わせ



1月13日、福祉センター遊戯室にて新年顔合わせ会を開催しました。座ったままできる体操やボール叩きレクで体を動かし、連想ゲームで頭の体操も行いました。会員さんによる芸能発表も披露してもらい、久しぶりに楽しいひとときを過ごしていただきました。



【会員による芸能発表】

連載「子どもの頃のねぶたに思う①」山田 司

広報おおわにによると、町の住民参加型まちづくり事業補助金を活用し、ねぶたを盛り上げようと町内有志が団体を立ち上げ運行した由。どうか頑張って欲しい。

コロナ禍、2年続けて運行中止である。ふと、昭和30年前後のねぶたの思い出が脳裏を過った。「ホイキタ長さん！待ってたホイ！」と即座に反応し飛び出すほど芸事の好きだった「じっちゃん」その影響か物心のつく頃から登山囃子とねぶたを親しんだ。

当時わが宿川原村落には子ども主体のねぶたが「上」「中」「坂」「下」と4組存在した。世の中全体がまだ貧しく物資の乏しい時代であり、太鼓代わりに一斗缶を叩く組もあった。小生の所属する「中」組には、登山囃子に関係する子どもが多くいたので、笛や太鼓や鉦の鳴り物が一通り揃い囃子方には不自由なかった。夏休みが始まると同時に各自毛布を持ち込んで拠点に寝泊まりする日がナヌカ日まで続いた。拠点は「オオヤゲ」の小屋や蔵。食事だけは家に戻って取る。その期間は先輩達と行動を共にし、言うことをよく聞き絶対服従的な雰囲気であった。昔あったという若衆宿の趣きがあり、一種の伝統継承の学びの場である。

次号に続く……

会議・事業予定(4~7月)

月日	時間	会議・行事等	備考
5月10日(火)	9:00	老連定例会	福祉センター
6月7日(火)	9:00	老連定例会	福祉センター
7月5日(火)	9:00	老連定例会	福祉センター

※上記の行事については、確定しているもののみ掲載しております。

人生100歳！！

当会で一番の先輩、会員歴での貢献度も高いナチさん。



館田ナチさん 9★歳

お話を聞きにお訪ねした時、道幅の狭い通学路を雪かきしてびっくりした。そういえば夏も草取りをしている姿をよく見かけた。老人クラブの思い出は「仲の良いお友達と日帰り旅行へ出かけたこと、お寺の

奉仕活動や町内の行事、ねぶたの手伝い等、何にでも一生懸命やってきた」と振り返る。畑仕事や花を育てるのが好きだが、近年では膝が痛くて「今は皆さんのお世話になってばかり…」と。なんのなんの、「ナチさんいつも笑顔がまぶしいです」どうぞこれからも私たちのご指導よろしくね★

(聞き手 下相生老人クラブ 菊池)

新年度会員募集！！

募集中

★新たに入会したい方、地区に老人クラブがなく、新規に立ち上げたい方がありましたらご連絡お待ちしております。事務局 工藤・山口



単位老人クラブ名	会長名	会員数
上相生老人クラブ	板垣 年勇	19名
下相生老人クラブ	菊池 つる	14名
宿川原(鶴ヶ花)老人クラブ	山田 司	33名
三ツ目内ほほえみの会	佐々木 操	22名
居士老人クラブ	秋元 健治	23名
高野新田老人クラブ	渡辺 久一郎	21名
蔵館(長生会)老人クラブ	米倉 忠英	15名
唐牛(寿楽会)老人クラブ	藤田 久雄	32名
駒の台老人クラブ	成田 孝昭	19名
八幡館老人クラブ	三浦 ミチヤ	10名
白寿会(九十九森)	原子 資茂	28名

俳句・短歌・川柳コーナー

雪解川を眺めつつ振り向くと、野にはもう下萌えが…。

待ち焦がれていた明るい春が一気にやってきました。まもなく田畑の耕作も一斉に始まることでしょう…。

老木の芽のはつらつと鳥帰る



油川 徹

湯の宿の雪の小路行く月あかり

鎮目 志保子

座り込む園児の絨毯タンポポ野

成田 さなえ

紅梅の夕月細くかかりをり

油川 信子

縄解きの忘れし一樹春の雨

菊池 つる



おらほの活動紹介

美味しい料理とあずましい温泉 ~唐牛老人クラブ~



テレビを見ても新聞をめくっても、毎日のように暗いニュースばかり…。それに伴いコロナもまた一向に収束の兆しはなく、あちらこちらに飛び火してくすぶっている昨今です。

私たち老人の楽しみであります色々な行事、そして温泉旅行などは中止になり、何の希望も持てないこの頃です。温泉と言えば大鰐町温泉に勝る温泉はありません。それでも人間は、欲張りで隣の芝生がきれいでも良く見えるように、町外の温泉に行きたがる。

昨年12月12日、平川市柏木温泉にて会員19名、三日湯治にでも行くような気持ちでわくわくしながら出かけました。温泉、御馳走、カラオケと、それはそれは楽しい一日を過ごしました。帰りのバスの中で「なんぼ、今日楽しかったばな。これだばまんだまんだ死ねねえな。長生きさねば」と皆の声が聞かれています。

料理教室開催

~宿川原老人クラブ~

当クラブでは前年同様、江刺家操氏に御足労を願い講師に迎えて料理教室を実施する運びとなりました。

未だコロナ禍の状況において1月18日、7名の参加者全員が手指消毒、マスク着用そして換気に十分気を配りつつ講師の指導を受けて



行いました。

時節柄を考慮し静かに会話し会話も控えめにしました。

講師にはお忙しい中、材料の買い出しや料理手順表の作成などで大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

献立

- ① 海鮮具だくさんパエリア
- ② 蟹クリームコロッケ
- ③ 若鶏のくわ焼き
- ④ 卵スープ



新年会と日帰り湯治

~居士老人クラブ~

毎年予定している日帰り湯治でしたが、この2年間コロナウイルス問題で中止を余儀なくされて来ました。

久しぶりに1月9日新年会を兼ねた日帰り湯治を行う事が出来ました。20名ほどの人員で会場の大坊温泉へいっしょに生き生きとした顔でもなく到着。さっそく温泉にゆっくり浸かって、いよいよ宴会が始まり、それはそれは大変な賑わいでカラオケ、踊り、次々に日頃の成果を披露し、時を忘れるほど楽しい一日でした。これほど楽しい一日が色々な行事の中止の中で行われた事は、私達にとって貴重な経験かと思われま。



『ふるさとは遠きにありて思ふもの』文：成田さなえ

室生犀星の「小景異情（その2）」のこの詩は誰しもが一度は目にしているのでは？故郷は実際に帰るべきところではなく異郷にて思い出すべきところなのではないでしょうか？この詩が謳うように。帰郷し故郷で、故郷のことを思いながら作られた背景を想うと故郷は決して犀星にとっては居心地よく迎えてはくれなかったのか。それを想うと本当に切ない詩ではあります。如何なることになろうとも決して故郷へは帰らないという決意の旅立ち。皆さんも一度お読みになってみてください。



私はこの町に生まれ育ち、妻となり母となりしっかりと根を張った大鰐町民です。時の流れというものものは町も人も情けも容赦なく変えてゆきます。幼友達の訃報も時々耳にしては落ち込んでおります。懐かしき母校（旧蔵館小学校）はもはや廃校。でも毎年春には桜が咲きます。花吹雪が舞います。私が学んだ校舎とは違っても、あの坂を上って一息つく懐かしさはひとしおです。

うちは学校のすぐそばでしたから登校時間教室まで5分。おかげさまで遅刻なし。もちろん妹たちも。そんなふうに紡いだ思い出の数々はやはり故郷を語る時、走馬灯のように脳裏を駆け巡るのです。時を飛び越えてその場面場面のなんと懐かしいことか。ところどころ間引かれたりセピア色に染まったりそれはそれでいいのだと自分に言い聞かせています。

私たちの町『大鰐』そして私の故郷『蔵館』大きく変わったことの一つにあの『お茶の水』が無くなったこと。しばらくぶりに実家へ向かった時「あれなんか変。『お茶の水』がない！」跡地はすっかりコンクリートに固められなんと殺風景なことか。びっくりしました。それなり

の理由があるにしてもとても残念に思いました。

故郷も時とともに変わり続けます。だからこその心の中にある故郷の風景を大事にしないといけないなとも思いました。心の中では永遠に不変かと。

町保健福祉課ミニだより



コロナフレイルにご注意を！！

年とともに筋力や活力が低下していくのが「フレイル」です。コロナ禍でうち時間が増えて家でじっとしていると、筋力は低下し、食欲もなくなり、人と話さないで滑舌も悪化していきます。

意欲低下、認知機能低下、筋力低下、低栄養が進んで心身の機能があつという間に急降下するのが「コロナフレイル」です。予防には「座っている時間を減らし体を動かす」「低栄養予防にしっかり食事をとる」「人と話したり歌を歌って口を動かす」ことが大事です。自分の体を守るのは自分自身です。意識して予防に取り組みましょう。



編集後記

2月1日付けで、大鰐町社会福祉協議会の職員として働いております、工藤真(くどうまこと)と申します。老連の事業や広報委員会を担当させていただくことになりました。今回編集に携わってみて、一番印象に残ったことは「温泉は人を笑顔にする」ということです。温泉好きの私としては、大鰐町の温泉を制覇することを目標に掲げ、日々頑張りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

